



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター  
(奈良県保健環境研究センター内)  
**Nara IDSC**



## ● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（4、5月月報） **New**
- 病原体（ウイルス）検出情報（平成 23 年 4 月、5 月） **New**
- 気になる話題～最近の国の動きから～ **New**



（調査週） 平成 23 年 第 22 週 5 月 30 日（月）～ 6 月 5 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	4.20	→～↓	→～↓	→	↓
2	水 痘	1.57	→	→	→～↓	→
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.49	→～↑	↑	→	→～↓
4	伝染性紅斑	1.06	→～↑	→～↑	→	↓
5	インフルエンザ	0.51	↓	↓	↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は 197 例で、前週報告の 158 例から増加。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③伝染性紅斑、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤インフルエンザの順。インフルエンザの報告数（5→17 例）が、再度増加。水痘の報告数（34 例）は、増加。伝染性紅斑の報告数（29 例）も、増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（25 例）は、増加。感染性胃腸炎の報告数（66 例）は、ほぼ横ばい。なお、インフルエンザが、再度上位 5 疾患に入った。（奈良市 HC 管内；11 例、郡山 HC 管内；6 例）郡山 HC 管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎の報告が 1 例（15～19 歳症例）あった。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。（村井 記）

**県北部外来状況**：インフルエンザは週に 1 例が続いている、終息した模様である。溶連菌咽頭炎が先週より急激に増加した。咽喉の痛みが持続し熱は出てもすぐ下がるような例が多い。感染性胃腸炎は、ロタウイルスがまた幼児ででてきているが、数は少なくなっている。暑くなり、手足口病が保育園児で 3 週続いてでている。小学校高学年以上で突然の発熱と頭痛を訴える例が増えている。夏風邪のウイルスと思われる。流行性耳下腺炎も今後流行しそうであるが、水痘は流行が収まりつつある。伝染性紅斑が相変わらず流行している。（矢追 記）

**県中部地区概況** 報告数は 168 例から 150 例とやや減少した。上位の 5 疾患(21 週→22 週)は、①感染性胃腸炎(65 例→76 例)、②A 群溶連菌咽頭炎(39 例→21 例)、③水痘(18 例→16 例)、④咽頭結膜熱(14 例→8 例)＝④伝染性紅斑(6 例→8 例)であった。眼科定点からは、流行性角結膜炎 2 例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。(徳田 記)

**県中部外来状況**：外来数は普通、横ばい。インフルエンザは地域により A 型が流行との保護者からの情報があるが当院では 2 週続いて 0 件であった。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例と種々のペロ毒素陰性の病原性大腸菌等が検出される細菌性の例が多い。ロタウイルスは通常迅速検査の感度が良く早い段階で陽性に出る例が多いが、1 歳児で、2 日程度の発熱、嘔吐の段階で陰性、後から下痢がはじまり、漸く陽性に確認された例があった。A 群溶連菌感染症が流行中、熱と発疹が先行し、咽頭所見が典型でない例が多い印象。7 歳児で、A 群溶連菌典型発疹が紫斑状となっており、血小板が 14 万と軽度減少の例があり、経過観察中。手足口病も流行中。高熱例、口内炎のない例、水疱が前腕・下肢全体など軟部にでる例など過去の典型例と症状が異なる例が多い。6 歳児の水痘例で、高熱が先行し水疱形成がスローで数日後まではっきり出ない例があった。他に、5 歳児で、下着に少し血が付くとの主訴で、全身診察の結果出血傾向があり、血小板 4000(当日は WBC、RBC 正常)で県立医大へ紹介、入院後急激に進行した再生不良性貧血例があった。(岡本 記)

**県南部地区概況** 報告数(第 21 週→第 22 週)は 35 例→19 例と減少。報告のあった疾患は、①A 群溶連菌咽頭炎(7 例→6 例)、②感染性胃腸炎(11 例→5 例)、②水痘(10 例→5 例)、④インフルエンザ(4 例→1 例)、④突発性発疹(2 例→1 例)、④流行性耳下腺炎(0 例→1 例)。(柳生 記)

**県南部外来状況**：外来数は第 21 週で減少したが、その後またやや増加している。インフルエンザは第 21 週で 0 となったが、第 22 週で再び小学 3 年生の B 型の例があった。その後は見られず。感染性胃腸炎はロタが第 21 週で急減、第 22 週も僅かとなった。水痘が第 21 週で急増したが、その後は減少した。流行性耳下腺炎僅か。アデノウイルス感染症もあった。(山本 記)

**【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（4、5月月報）】**

平成 23 年 4 月および 5 月に、定点医療機関より奈良県内の保健所に届出のあった月報告対象定点把握感染症の報告数は以下の通りです。

・STD 患者数（人）

疾患名/報告月	5月		4月	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	6	0.67	4	0.44
性器ヘルペスウイルス感染症	1	0.11	8	0.89
尖圭コンジローマ	0	0	1	0.11
淋菌感染症	3	0.33	3	0.33

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名/報告月	5月		4月	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	23	3.83	35	5.83
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	1.83	15	2.50
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	2	0.33
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

（感染症情報センター 記）

**【病原体（ウイルス）検出情報（平成 23 年 4 月、5 月）】**

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、4 月および 5 月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成 23 年 4 月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	他	臨床診断名
ロタ	A	13	21	8		感染性胃腸炎（42）
ノロ	GII	4				感染性胃腸炎（4）
インフルエンザ	AH3		1		1	インフルエンザ（2）
インフルエンザ	B	1	5	1	1	インフルエンザ（8）

患者数（平成 23 年 5 月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	臨床診断名
ロタ	A	15	17	14	感染性胃腸炎（46）
ノロ	GII	1	1		感染性胃腸炎（2）
アデノ	2	1			感染性胃腸炎（1）
インフルエンザ	AH3	1			インフルエンザ（1）
インフルエンザ	B	1	10		インフルエンザ（12）
コクサッキー	B4				無菌性髄膜炎（1）
ポリオ	1	1			感染性胃腸炎（1）；ロタ A の重複感染
ポリオ	2		2		感染性胃腸炎（2）， うちロタ A の重複感染（1）

（保健環境研究センター 記）

【気になる話題 ～最近の国の動きから～】

1. 結核に関する特定感染症予防指針の一部改正について

厚生労働省は、「結核に関する特定感染症予防指針」の一部改正を平成 23 年 5 月 16 日付で施行しました。平成 27 年までの具体的な成果・事業目標として以下をあげています。

平成 27 年までの成果・事業目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口 10 万人対結核り患率を 15 以下とする</li> <li>・肺結核患者のうち再治療を受けている者の割合を 7%以下とする</li> <li>・全結核患者に対する DOTS（直接服薬確認療法）実施率を 95%以上とする</li> <li>・治療失敗・脱落者を 5%以下とする</li> <li>・潜在性結核感染症治療開始者のうち治療完了者を 85%以上とする</li> </ul>

「結核に関する特定感染症予防指針」全文はこちら

URL : <http://www.ourei.mhlw.go.jp/ourei/doc/ourei/H110517H0011.pdf>

2. 麻しん・風しん（MR）ワクチンの定期接種対象者の追加について

内閣は、平成 23 年 5 月 20 日付けの政令（政令第百四十四号）で「予防接種法施行令」の一部を改正し、麻しん・風しんのワクチン定期接種定期接種対象者を拡大しました。新たに対象となったのは、年度中に満 17 歳となる者で、平成 24 年 3 月 31 日までの適用となります。

追加対象者	適用期間
年度中に満 17 歳となる者 （高校 2 年生相当）	平成 23 年 5 月 20 日から 平成 24 年 3 月 31 日まで

（感染症情報センター 記）